

科目	経営診断論	担当	三井 啓	履修学年	2年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	選択	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

企業は、自社の外部環境・内部要因の状況把握と決断により経営している。また、企業にはその組織内外の利害関係者に対して社会的責任を負う立場にあり、永続的繁栄という社会的使命が課せられている。しかるに、この企業の経営活動を診断するとは、この経営における各種経営システムの目的の実現、問題解決(ソリューション)の実現、イノベーションの実現を図るために、経営システムを分析・評価し、問題点を抽出し、課題及び解決策を策定・提示し、その課題及び解決策の実現を支援する一連の専門的サービスのシステムであると言える。

講義では、経営診断を単なる企業の財務分析に終わらせず、理念、組織、人的資源等、企業・経営を総合的に判断するものであり、そのための視野、切り口、視点、視座という診断思考の習得にも努める。

【履修注意】

出来れば経営基礎科目(経営学、簿記または会計科目等)を履修していることが望ましいが、学習経験が少なくても受講出来るような講義にする予定である。

【評価方法】

期末テスト60%、中間まとめ20%、出欠席20%程度を加点要素とし、受講態度を考慮して総合的に判断する。

【試験について】

筆記試験を行う。

再試験対象者の条件: 不合格者のうち40点以上のものを対象とする

【予習・復習】

講義の復習として、問題のプリントを配布するので次回講義までに各自学習すること。また、講義中に紹介する参考書を読み、講義内容の理解を深めること。

【教科書】

書籍名: 経営診断要論 著者: 岸川 善光 出版社: 同文館出版 ほか

※必要に応じて講義中に紹介する

【参考書】

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	経営診断の前に	中小企業診断士を目指してみる
2	「経営」を診断する意義・目的	会社って何だろう? 経営ってどんなもの?
3	経営診断の目指すもの	環境変化と経営診断、経営診断の定義、目的、特性、原則
4	経営診断論の生成と発展	経営診断論の生成と歴史的変遷
5	経営診断の体系	経営診断のフレームワーク、アプローチ、プロセス、対象領域
6	経営システムの診断	経営システムの意義、環境－戦略－組織適合の診断
7	経営管理システムの診断	意義、診断対象: HR管理、財務管理、情報管理、法務管理
8	まとめ	1～7までのまとめ
9	業務システムの診断	意義、診断対象: 研究開発、調達、生産、マーケティング、物流
10	業種別の診断	診断対象: 製造業、卸売業、小売業、サービス業、物流業
11	新規・拡大領域の診断	診断対象: NPO、コミュニティ、企業間関係、工業・商業集団
12	経営診断の主体	経営コンサルタント、職業倫理
13	経営診断論の今日的課題	診断の視点: 環境性、社会性、人間性、革新性、グローバル性
14	企業診断の視点	経営計画(中長期、年度計画)、事業計画、マネジメント・サイクル
15	経営診断について考える	経営診断の切り口・視点・視座・視野について考える
16	期末試験	15コマの復習・確認・総まとめ